

令和7年度 事業報告

令和7年4月1日
～令和8年3月31日



島根県へ「大根島牡丹」を贈呈
(11月20日)



特産西条柿「こづち」の選果
(10月10日)



産直出荷配送車両出発式
(8月27日)



令和7年産米集荷決起大会
(7月29日)



担い手訪問
(5月30日)

保管事業

- (2) 廃棄農薬2,283kg、廃棄プラスチック157,676kgを回収し、適正処理による環境にやさしい農業を推進。

2. 生活

区分	実績	備考
自動車	260,374千円	車両販売 224,850千円 整備部品 35,524千円
L P ガス	252,770千円	供給 242,411千円 ガス器具 10,359千円
生活 資材	84,685千円	シロアリ工事 52,780千円 テレショップ 30,618千円
合計	597,759千円	

資産管理・相続相談事業

1. 資産相談

区分	実績
不動産売買相談	21件
相続関連相談	131件
贈与関連相談	7件
所得税関連相談	3件
土地利活用相談	4件
法務関連相談	1件
その他	7件
合計	174件

2. 宅地等供給

- (1) 不動産売買3件(前年度3件)。
(2) 住宅等の改修リフォーム5件(前年度13件)。
(3) 53棟322室(前年度53棟322室)の賃貸住宅管理※空室率9.32%(前年度8.39%)。

葬祭事業

1. 多様化する葬儀形態に合わせ、ご家族・ご遺族に安心して利用いただけるよう葬儀を施行。
2. 葬儀施行件数は516件(前年度588件)で、うち「虹のホール」の会館利用は359件、会館利用率69.6%(前年度405件、68.9%)の実績。
3. 葬祭センター(虹のホールこほく隣接)での葬儀無料相談や、自宅等への出張相談(61件)に取り組んだ。
4. 利用者との絆を大切にし、法要ギフト・墓石・仏壇仏具等の提案活動に取り組んだ。

利用事業(営農)

1. 育苗

水稲苗は80,462箱(前年度79,867箱)、野菜苗は12,724トレー(前年度12,538トレー)の育苗実績。

2. 米穀乾燥調製施設

カントリーエレベーター「稲蔵」987t(前年度873t)、南ライスセンター454t(前年度345t)の処理実績。

3. 無人ヘリ防除

水稲の防除面積は、330.0ha(前年度235.6ha)の散布実績。

加工事業

1. 雲州人参

出荷量は34.3kg(前年度40.3kg)の実績。また、「種苗確保」に取り組んだ。さらに、由志園アグリファームで委託加工を実施。

2. 茶

一番茶は、3月以降気温の低い日が続いたことで芽の伸びが悪く、また遅霜被害の影響により摘採量は減少。秋冬番茶も、一番茶同様に摘採量は減少。茶工場取扱量は、一番茶、秋番茶の合計が14.8t(前年度24.2t)の実績。また、全役職員による販売活動(サンサン運動4月～5月)を継続実施。

購買事業

1. 生産資材

種類	実績
肥料	236,196千円
農薬	153,513千円
飼料	89,630千円
生産資材	291,836千円
合計	771,175千円

- (1) 集落営農組織・認定農業者等の担い手を対象に、提案型訪問活動を実施し、超大型規格や低コスト農薬等二ーズに即した資材を提供。

月～10月)を中心に15.5t(前年度18.7t)の出荷量。

- (2) 東出雲町特産「燗ほし柿」は瀬戸内市場、「あんぽ柿」は広島、京都市場を中心に出荷。生果と同様、奇形果の発生及び夏の猛暑の影響もあり小玉傾向となったが、出荷量は昨年よりも増加。

(4) 牡丹

- ①お歳暮・正月向けを中心とした牡丹鉢花は、開花調整期間は順調に生育。消費者需要に対応する数量を確保することができ、出荷量は4,448鉢(前年度4,375鉢)の実績。
②苗木用の普通苗は、生産量の減少により出荷量が4.1万本(前年度5.1万本)と減少。既存の販売先との繋がりに重点を置いた販売に取り組んだ。
③持続可能な牡丹生産環境を実現するため、島根県へ「正月咲き牡丹」を贈呈。(11/20・写真)

(5) そば

播種時期の強い降雨による発芽不良、開花期の高温による結実不良の影響および帰化アサガオの発生により刈取不能圃場が多く、前年と比較し収量が減少。栽培面積は96.4ha(前年度105.2ha)、収量は15.1t(前年度26t)の実績。

(6) ぶどう

松江市内で生産されるぶどうの生産拡大と販売力強化を目的に、松江ぶどう生産組合が設立。(7/3・写真)

(7) 畜産

- ①全国的な繁殖農家の減少により、子牛価格は高く推移。子牛出荷頭数は、96頭(前年度95頭)と前年並みの実績。
②和牛繁殖雌牛の生産性向上のため、県単・市単事業等の補助事業を活用し、優良雌牛を13頭(前年度13頭)導入更新。
③生乳は、乳量が132t(前年度126t)、販売高が18,879千円(前年度18,245千円)の実績。
④鶏卵は、物価高騰の影響により卵価が値上がりし、販売高は44,994千円(前年度34,750千円)の実績。

営農指導・販売事業

底等によりイネカメムシ類の発生量は減少。

- (2) 米集荷は、役員同行の担い手訪問(5/30・写真)や生産者への出荷依頼等集荷対策を実施し、JAへの出荷を促進。米集荷率向上と、生産者の経営安定につなげるため、「米集荷決起大会」を開催(7/29・写真)。申出数量83,450袋(前年度96,042袋)に対し、集荷実績86,491袋(前年度66,627袋)、申出対比103.6%(前年度69.3%)の実績。
③役職員による「かがやき舞くにびき“つや姫(無洗米)”」の新米キャンペーン(9月～)を実施。

(2) 野菜

- ①「くにびきキャベツ」は、夏場の高温・乾燥による定植後の害虫被害が発生した影響により、出荷初期は大きく減収。その後は安定した出荷となり、販売数量は788t(前年729t)と概ね平年並みの実績。
②新たな振興品目である「くにびき南瓜」「くにびきレタス」「くにびきさつまいも」と高収益作物「島根たまねぎ」の特産化に向け、新規栽培者の確保と生産者の所得向上、生産拡大に取り組んだ。各生産者・作付面積は、南瓜で47経営体・8.3ha(前年48経営体・7.68ha)、レタスで21経営体・5.7ha(前年21経営体・4.6ha)、さつまいもで9経営体・1.0ha、たまねぎで3経営体・3.4ha(前年4経営体・3.98ha)の実績。
③「はまぼうふう」は、新規生産者1名が加わり生産量が拡大。また、広島・岡山・大阪・山陰の各市場へ出荷し、市場との情報交換を行い有利販売に取り組んだ。生産者・作付面積は、7経営体・0.57ha(前年7経営体・0.5ha)の実績。

(3) 西条柿

- ①西条柿「こづち」は、春の気温の寒暖差が影響し奇形果の発生、遅霜の被害による収量の減少及び夏の猛暑により小玉傾向で出荷量が減少(10/10・写真)。県内外の市場とサンサン運動(9

96.1ha)の実績。

8. 安定的な販売に取り組むため、収穫前契約を推進し、米卸業者に対応した品種転換に取り組み、集荷数量で「きぬむすめ」1,143.2t(前年度787.9t)、「つや姫」695.1t(前年度573.8t)の実績。
9. 良質米生産の推進と売れる米づくりの実践に向け、「水稲指導会」の開催、「稲作メール」「稲作情報」による情報提供を実施し品質向上対策に取り組んだ。1等米比率については、収穫時期の高温による影響で「コシヒカリ」が9.4%(前年13.6%)と低く、「きぬむすめ」で65.7%(前年78.2%)、全体で53.6%(前年68.8%)と前年より一等米が減少。
10. 地産地消の取り組み
(1) 新規産直会員の増加に向け「さんちょく営農塾」を開講(3月)し、17名が参加。令和7年度の出荷者協議会は、46名4団体が新たに加盟し1,123名の会員数。
(2) 産直事業は、みしまや学園店にインショップの産直売場を新設し販売強化に取り組んだ。全体販売額は566,434千円(前年比99.5%)の実績。
(3) 産直の品揃え拡充に向けて、出荷者協議会各支部で野菜栽培講習会を実施。
(4) 学校給食の地場産野菜利用率増加に向け、関係機関、生産者と連携を取り、新たな品目の提案等学校給食への地場野菜提供を実施。
(5) 店舗間での出荷偏りを解消し、安全・安心な地元産をバランス良く届けることや、生産者の負担軽減を目的に産直出荷配送車両を導入。(8/27・写真)
11. 農畜産物別の取り組み

(1) 水稲

- ①作柄については、田植え後は概ね順調に生育。分けつ期～幼穂形成期は、気温が高く藻類やガス湧きの発生する圃場が散見され、全体的に茎数が少ない傾向。梅雨明けが早く出穂期～登熟期となる7～8月は少雨・高温・多日照が続き、高温により生育が早まり、多日照の影響から全体的には収量は多くなったが、夏期高温の影響により米の品質に大きく影響。また、防除の徹



松江ぶどう生産組合設立
(7月3日)

主な農産物販売高

米	946百万円
野菜	837百万円
果樹	60百万円
畜産物	182百万円

1. JAしまね「第4次農業戦略実践3か年営農計画」(令和7年度～令和9年度)の初年度として、重点実施事項に基づき、管内の農業振興に取り組んだ。
2. 新規就農者等を対象とした育成研修の一環として、農産物のキャッチコピー等を学ぶ研修会を開催。また、新規就農希望者の就農計画作成等の就農支援を島根県、松江市と連携し実施。
3. 担い手経営体に対し専門家による経営改善に向けたコンサルティングを実施。また、農林中央金庫とローンセンターと連携し、経営課題を可視化し、短・中・長期的な課題に対し解決策を提案する担い手コンサルティングを実施。
4. 令和6年度に設立した2法人に対し関係機関と連携し継続して相談・支援し、リゾケア対応や税務申告指導を実施。
5. 労力支援として(株)農協観光企画の「援農ボランティア」を活用し、2法人に対して農業作業支援を実施。また、農福連携へ向けた取り組みの一環として新たな経営体に社会福祉協議会とマッチングを実施。
6. 新規就農者の大型・大規模資産施設取得に向けた支援として、消費税還付が可能な課税事業者となるようアドバイスを行い、就農がスムーズに出来るよう取り組んだ。
7. 水田を活用して栽培可能な作物である新規需要米について、主食用米高騰により飼料用米の作付面積は21.7ha(前年度63.6ha)と減少。また、耕畜連携によるWC S用稲は79.4ha(前年度



子ども食堂等へ寄付贈呈式
(3月17日)



全国家の光大会で記事活用体験発表
(2月25日)



「特殊詐欺」の防犯訓練
(12月3日)



第20回記念キッズサッカー大会
(11月29日～30日)



年金友の会グラウンドゴルフ大会
(10月24日)



「SNSを活用した情報発信強化」開始
(4月21日)

- 部の協力で「親子いもほり大会」を開催し、25組94名が参加。
- (4) 将来を担う子どもたちが、スポーツを通して友情を深め、明るく健やかに成長することを願い、「第20回記念キッズサッカー大会」を開催。(11/29～30・写真)

4. 健康管理活動

検診名	受診人数
胸部C T検診	41人
腹部超音波（エコー）検診	183人
乳がん検診	34人
女性部健診	76人

ＪＡしまね農業振興支援事業・業績還元資金

1. ＪＡしまね農業振興支援事業

支援名	内容	金額
園芸重点6品目産地拡大支援	①たまねぎ(種子)319千円、②キャベツ(苗、生産資材)支援(農業法人1団体、認定農業者1名)	623千円
有機農業取組支援	苗、生産資材支援	148千円
施設・農機具類等及び土づくり資材の導入支援	生産基盤強化を図るため(資材、農機具)支援(認定新規就農者9名)	756千円
合計		1,527千円

2. 業績還元

資金使途	内容	金額
肥料農業特価販売	各ＪＡグリーン・グリーンショップ等で、組合員・利用者が幅広く購入される肥料と農業を厳選し、3割引特売を実施(10/4～10/11) ※予算額に達したため終了。	4,891千円
支店独自還元企画	ご来店感謝デーやエコロ祭等、支店運営委員と実施内容を協議し、各支店100千円(税込)を予算として総額1,300千円の業績還元を実施。	1,128千円
合計		6,019千円

- づくりと次世代の組合員化に向けて「組合員加入促進運動」に取り組み、正組合員は35名、准組合員は395名が加入。(資格変更、法人・団体を除く)
- (6) ふれあい座談会—令和8年1月～2月に全32会場で開催し、589名(正組合員502名・准組合員67名・員外20名)が参加。当地区本部の組織運営の基礎である集落が大きく変化する中、組合員の参加・参画が高まるよう開催単位・参集範囲・開催内容・形式について各支店運営委員会で協議し、各集落委員会にて決定し、開催。

2. 広報・教育文化活動

- (1) ＪＡしまね広報誌「ＪＡしまねびより」やホームページ等により広報活動を展開。
- (2) 教育文化活動による協同組合の理解促進を深めるため、「家の光三誌(家の光・ちゃぐりん・地上)」「日本農業新聞」等、教育資材の普及拡大に取り組んだ。
- (3) 組合員・地域住民との絆づくりの一環として「支店だより」を全支店が発行。また、「くにびき創生PJ」で企画・立案し「SNSを活用した情報発信強化」について全20発信部署で取り組み、より身近な情報発信に努めた。(4/21・写真)
3. 暮らしの活動・地域貢献・地域活性化
- (1) 「地域貢献・地域活性化」に取り組むグループ・団体等の多様な取り組みについて、「1団体」を表彰。また、フードバンク・子ども食堂の普及・維持・拡大または開始するための活動支援を目的として、「3団体」への支援を実施。
- (2) 子どものいる「生活困窮世帯」に必要な食糧等を届ける「フードバンクしまね“あったか元気便”」に協力。くにびき女性部が主体となって6月と11月にそれぞれ「ひとり一品運動」を実施し、各支店単位で食品の持ち込み運動を展開して、食料提供に取り組んだ。また、「総合ポイントカード」で発生した失効ポイントの一部を活用し、子育て支援組織等27組織へ「全農商品券」等を寄付。(3/17・写真)
- (3) 青年連盟との共催とくにびき女性

- 部の確立と経営基盤の強化に向けた人づくり」として、ＪＡ島根中央会主催の各種階層別研修へ参加。また、各種資格試験について受験動奨を実施。マネジメント能力向上に向け、管理職に目標管理・人事考課、職場マネジメントの研修会を実施。

組織、広報・教育文化活動、暮らしの活動・地域貢献・地域活性化、健康管理活動

1. 組織

- (1) 農政会議—関係団体と連携し行政へ有害鳥獣対策等の要望書を提出するとともに、農政の諸問題の要望について意見交換会を実施。また、研修会活動へ積極的に参加するとともに、松江市農林水産祭で「米のすくい取り」を実施し、松江市産米の消費拡大をＰＲ。
- (2) 青年連盟—地域の幼稚園に対し「田植え・稲刈り体験」の農業体験実習を実施。また、地域の小学校に対し「イチゴの授業」による食農教育に取り組んだ。さらに、地域住民との「ふれあい親子いもほり大会」を開催し、農業理解を促進。
- (3) 女性部—目的別グループ活動は、3グループ(「文化歴史・趣味」・「営農加工」・「健康」)で9講座19回開催し、延べ512人が参加。県下女性部の活動として「米一握り運動」を実施し、くにびき女性部として184kgの米を集め、松江市内の子ども食堂、フードバンクへ寄贈。また、ＪＡしまね広報誌での「くにびき女性部からのおすすめ料理」や、山陰中央新報の「かあちゃんの一押し献立」において料理を紹介。さらに「第67回全国家の光」都道府県代表体験発表会で、「家の光記事活用体験発表の部」に島根県代表として出場。(2/25・写真)
- (4) 女性大学—サンサン女子大第7期の2年次として、食と農を主に文化、福祉等様々な分野のカリキュラムを通じて、参加者が自己啓発と交流や親睦を深耕。また、ＪＡ事業への関心と参画を高めることを目的として毎月講座を開催。
- (5) 組合員加入促進—強固な組織基盤

- 決定。また、ＪＡグリーン・グリーンショップの今後の店舗戦略について、改革推進プロジェクトや地区本部運営委員会、地域別意見交換会等において協議し、各店舗方針を制定。同方針に基づき、令和8年3月にグリーンショップやくもを閉店。
- (3) 信用・共済事業改革として、現在の13支店を「組合員の拠り所・地域拠点」として今後も維持していくため、ブロック体制による業務集約化・効率化について令和8年4月からの一部店舗における昼休業導入及び融資業務集約に向け協議を進めた。また、「旧ふれあい店」の有効活用や処分に併せてATMの再編を検討し、旧大芦・意東店ATMを廃止(旧大芦店ATM：3月、旧意東店ATM：5月)。効率的店舗運営と管理部門の見直しで人員を「出向く体制」へ転換し、渉外担当職員を充実(増員・再任用)させ、体制を強化。
- (4) 企画総務部門では、一部使途が不明瞭になっていた「集落組合助成金」について、実態調査を実施するとともに、有効活用に向け改革推進プロジェクトで協議を進め、令和8年度から「申請方式」へ変更することを決定。ふれあい座談会において意見集約を実施。
- (5) 当地区本部が抱える諸課題の解決に向け「不稼働資産流動化」「ＪＡグリーン・グリーンショップ改革」「米集荷・販売運動」「集落座談会・集落委員あり方検討」「くにびき創生」「くにびき協同サービス体制検討」「有害鳥獣対策支援」「八束特産振興」の8つの改革推進プロジェクトに引き続き取り組み、その解決に向けた具体策について地区本部運営委員とともに協議・検討を行い、実施可能なものから取り組んだ。
2. 管理
- 「コンプライアンス・プログラム」に基づく年間行動計画を策定し、実践。また、コンプライアンス遵守・不祥事未然防止の強化に取り組んだ。
3. 人事
- 「農業協同組合らしい人づくり、組織基

共済事業

1. 組合員・利用者に感謝の気持ちをお伝えするとともに、絆の強化を目指し、「3Q活動」を実施。ＪＡ事業や共済事業に関連した情報提供ならびに未請求案件(入院や手術、建物被害等)の解消を目的に、23,376人のフォロー訪問活動を実施。
2. 共済契約保有高は、満期契約の増加や転換契約・解約等により前年度より減少し、期末保有高は4,422億円(前年度4,619億円)の実績。
3. 多発する自然災害や火災にもしっかり備えることができる「建物更生共済むてきプラス」や、新仕組みの「がん共済」の積極的なお知らせ活動を中心として、より魅力あるＪＡ共済の普及活動を実施。実績ポイント4,841,708P※達成率125.3%(前年度4,595,968P)。
4. 短期共済は、自動車共済の新規獲得および保障内容充実に向け、スマイルサポーター・ＬＡ・安心サポーターの連携を強化。新規・継続を含めた契約件数は21,954件(前年度21,918件)の実績。また、最高水準保障のクルマスター占有率は28.8%(前年度28.5%)。万が一の自動車事故に際し、迅速な初期対応とネットワークを利用した契約者サービスを提供。
5. ペーパーレス・キャッシュレス手続きによる業務効率化・事務負担軽減を図るとともに、オンライン手続きに向けたWebマイページ登録を推進。
6. 社会貢献活動の一環として、4月に「管内中学校への反射材の贈呈(タスキ723本、テープ1,749枚)」、5月に「スタントマンによる自転車交通安全教室の開催」、9月に「松江市へのカーブミラー(50基)の贈呈」(9/30・写真)等、交通安全意識の啓発に取り組んだ。

経営・管理・人事

1. 経営
- (1) 農業情勢や事業環境が厳しい中、10年後を見据え「めざす姿」として策定した「第4次中期経営計画」ならびに「第4次農業戦略実践3カ年営農計画」の初年度として、各項目の進捗管理と目標達成に向けた事業改革・業務改善に取り組んだ。
- (2) 営農・経済事業改革として、(株)ジュンテンドーとの連携について協議を進め、4月からジュンテンドー大庭店との連携を開始することを

信用事業

1. 農業と地域、組合員・利用者をつなぐ金融商品の提供として、夏(6月～7月)と冬(12月～2月)の定期貯金キャンペーン、国消国産応援定期貯金キャンペーン(10月～2月)を実施。精力的に個人貯金増強に取り組み、貯金残高は1,388億54百万円(前年度1,365億97百万円)の実績。
2. 地域の農業メインバンク機能強化の取り組みとして、ＴＡＣとの情報連携強化を図り、低利で利用しやすい農業資金を提供。新規貸出実績は83件、231,459千円(前年度87件、166,568千円)の実績。
3. 個人貸出金については、住宅・マイカー・教育ローンを中心に取り組んだ。特に子育て世帯を中心に、ＪＡしまねで借り入れいただく「魅力ある金利」を提案可能とした「子育て応援宣言」を引き続き実施。貸出金残高は529億92百万円(前年度523億84百万円)の実績。
4. 年金指定口座獲得は、受給権が発生する方への訪問や無料の年金相談受付を随時行い、新規指定口座獲得に取り組んだ。また、ＪＡ以外の受給者へ向けた年金指定替え活動を実施。令和7年度3月末の年金受給者数は12,941名(前年度13,260名)となり、プレ年金受給者層へは年金予約獲得訪問を実施し、239件の予約実績(前年度267件)。
5. 年金友の会の活動は、「日帰り旅行(9月)」の実施と「第4回ゴルフコンペ(5月)」「第20回グラウンドゴルフ大会(10月)」を開催。(10/24・写真)
6. 資産形成・資産運用のサポートとして、組合員・利用者のニーズに沿った投資信託の販売に取り組む、販売額は200,997千円(前年度225,393千円)の実績。
7. 無料税務相談会を管内8会場(開催回数31回)で開催し、相続・贈与税や所得税を中心に53件の相談に対応。
8. 犯罪の未然防止や早期解決につなげることを目的に、防犯訓練を実施。(12/3・写真)



松江市にカーブミラーを寄贈
(9月30日)